



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

＼地域ボランティアの皆さんへ／

～ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト～

気づいてつなぐ 高知家地域共生社会研修

主催：高知県



1 知事からのメッセージ

高知県知事 濱田 省司

2 「高知型地域共生社会」の概念と 取り組みの意義

- (1) 「高知型地域共生社会」の構築に取り組む背景
- (2) 「高知型地域共生社会」とは
～「たて糸」と「よこ糸」で織りなす地域共生社会～
- (3) 市町村の多機関協働による包括的な支援体制の整備
～「たて糸」の具体的な支援事例～
- (4) 「つながり」を実感できる地域づくり
～「よこ糸」の具体的な取り組み～

(1) 高知型地域共生社会の構築に取り組む背景

地域の支え合いの力の弱まり



高知県では、

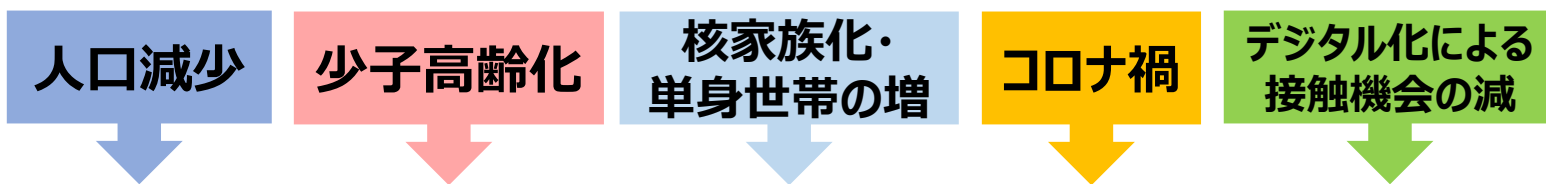
- ⚠️ 全国に **15年先行**し、平成2年から人口が自然減（▲502人）に転じる
- ⚠️ 全国に **10年先行**し、平成17年に4人に1人以上が65歳以上になる
- ⚠️ 特に **中山間地域では過疎・高齢化が進み、さらに集落の小規模化**などにより、**住民主体の「地域福祉活動」が十分に機能しない**ことに危機感

(S35⇒R2人口減少率) 高知県全体▲19.1%、中山間地域▲**52.2%**

(H27⇒R2世帯別集落数) 20～300世帯の集落▲**60世帯**、19世帯以下の集落+**51集落**)

さらに・・・

生活スタイルの変化などにより、地域のつながりや隣近所の助け合いなどの弱まり



「県民世論調査」(高知県)

地域のつながりが弱まったと答えた人

43.4%(H28) ⇒ 53.9%(R3)

地域の「力」が弱まってきた・・・

「集落实態調査」(高知県)

10年前と比較して地域活動の参加者が減ったと答えた人 68.6%(R3)



公的なサービスだけでは、十分に対応できない課題の増加

8050問題

80代の親が50代のひきこもりの子の生活を支える世帯



支え合いの力の弱まりで、複雑な課題が社会問題になった...

ヤングケアラー

本来大人が担うとされている家事や介護などを行っている子ども



ダブルケア

子育てと介護を同時に担うこと



孤独・孤立

ひきこもり

独居・核家族

コロナ禍

高知県では、地域の支え合いの力の再構築のため

平成21年から「高知型福祉」を推進！

高知型福祉 の理念

子どもから高齢者、障害者など年齢や属性を問わず、すべての県民が住み慣れた地域で安心して、ともに支え合いながら生き生きと暮らすことができる地域づくり



柱 1 高知型福祉の拠点として「あったかふれあいセンター」を整備

●拠点数 H21：28拠点 → R4：**56拠点290サテライト**

柱 2 地域福祉を担う人材の育成

●コミュニティソーシャルワーカー数 H24：34人 → **R4：70人**

●あったかふれあいセンター職員数 H21：135人 → **R4：261人**



柱 3 市町村「地域福祉計画」の策定の推進

●計画策定市町村 H21：6市町 → **R4：全市町村**



国では、地域共生社会の実現に向けて・・・

平成28年6月2日閣議決定

ニッポン一億総活躍プラン

「支え手側」と「受け手側」に分かれるのではなく、誰もが役割を持ち、支え合いながら、活躍できる、地域共生社会の実現

平成30年4月施行

社会福祉法の改正



① 「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念を規定

地域福祉推進の理念として、支援を必要とする住民（世帯）が抱える多様で複雑な「地域生活課題」について、①住民や福祉関係者による把握 及び ②関係機関との連携による解決 が図られることを目指す

つまり…

住民一人ひとりが主役となって、
お互いに支え合う地域社会へ



② この理念を実現するため、市町村は包括的な支援体制づくりに努めることを規定



③ **「地域共生社会の実現」の理念を新設** (第4条第1項)

【社会福祉法 第4条第1項】

地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。

④ **「重層的支援体制整備事業」の創設**



行政の支援体制と地域住民等による地域福祉の推進のために必要な環境を一体的かつ重層的に整備するため、「重層的支援体制整備事業」が創設された

【高知県】 平成21年から取り組んできた**「高知型福祉」**の取り組み



【国】 改正社会福祉法に基づく**「地域共生社会」**の取り組み

「高知型地域共生社会」の実現へ

(2) 「高知型地域共生社会」とは

～「たて糸」と「よこ糸」で織りなす地域共生社会～

令和4年10月30日、知事・34市町村長・全社会福祉協議会会長による共同宣言を実施し、「オール高知」の取り組みへ

高知家地域共生社会推進宣言

高知家の一人ひとりが住み慣れた地域で、健やかで心豊かに安心して暮らし続けることができるよう、人と人、人と社会が相互につながり、支え合う『地域共生社会』の実現に向けて、次のとおり宣言します

- 1 どんな困りごとでも受けとめて寄り添う仕組みづくりに取り組みます
- 2 誰もが身近な地域で人や社会とつながることができる場づくりに取り組みます
- 3 住民が主体となった支え合いの地域づくりを後押しします



令和4年10月30日「高知家地域共生社会推進宣言」の様子



「高知家地域共生社会推進宣言」に基づき、 2本柱で施策を推進



【宣言①】どんな困りごとでも受け止めて寄り添う
仕組みづくりに取り組みます

【宣言②】誰もが身近な地域で人や社会とつな
がることのできる場づくりに取り組みます
【宣言③】住民が主体となった支え合いの地域づ
くりを後押しします

柱1 行政主体の「たて糸」

分野を超えた「つながり」を意識した
行政の仕組みづくり
→「**たて糸**」として、市町村の
多機関協働による包括的な
支援体制の整備を促進



柱2 住民主体の「よこ糸」

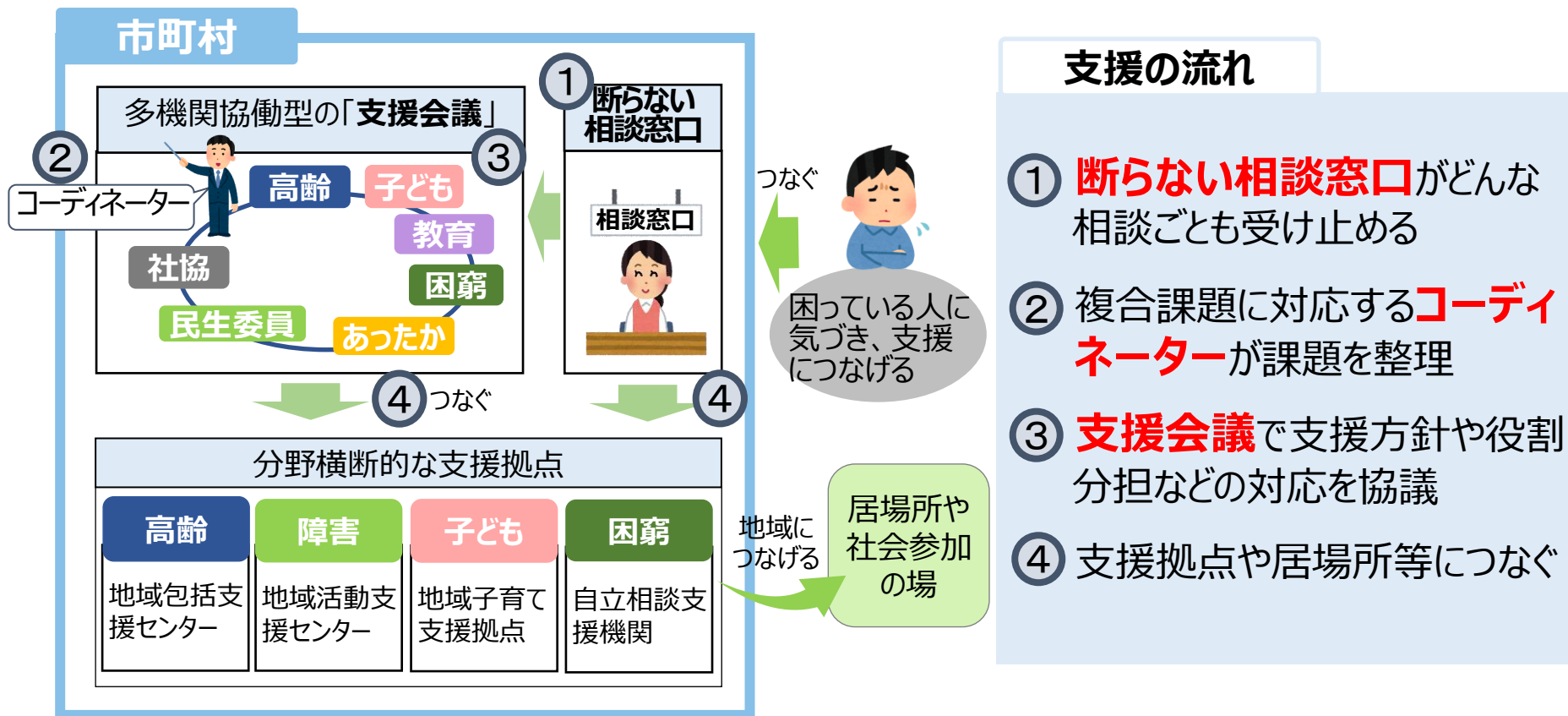
「つながり」を実感できる
地域づくり
→「**よこ糸**」として、人と人との
つながりの再生に向けたネット
ワークづくりを展開



縦糸と横糸で織りなす地域共生社会の拠点として
あったかふれあいセンターを活用

柱1 行政主体の「たて糸」

- 1 「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備
- 2 多機関の協働による包括的な支援体制の整備



柱2 住民主体の「よこ糸」

- 1 「住民に身近な圏域」において、地域住民等が主体的に地域生活課題を把握し、解決を試みることができる環境の整備
- 2 地域の支え合いの力の再構築



- 子どもも若者も高齢者も、誰もが様々な場面で困りごとを抱えるかもしれません。
- みんながつながり、支え合う地域づくりには、困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいくことが大切です。

身近な地域

① つながりの再生に向けたネットワークづくり

・ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト



② 居場所や社会参加の場の創出



③ 日ごろからの地域のつながり



市町村等支援窓口



(3) 市町村の多機関協働による包括的な支援体制の整備 ～「たて糸」の具体的な支援事例～

柱1 行政主体の「たて糸」

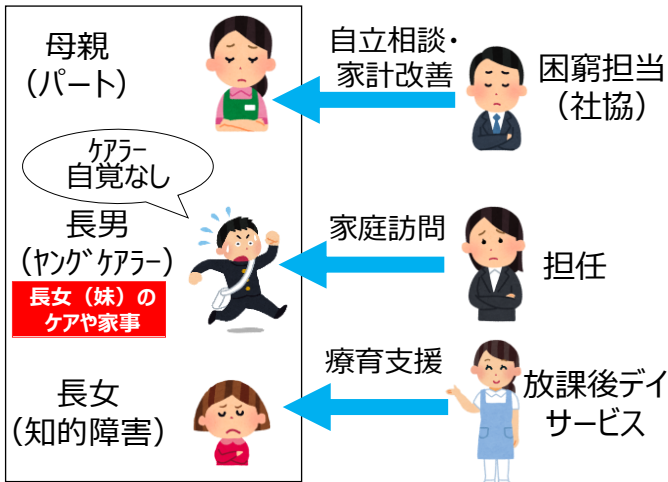
【事例1】ひとり親・ヤングケアラーへの包括的な相談支援



包括的な支援体制

整備前

ひとり親・ヤングケアラー



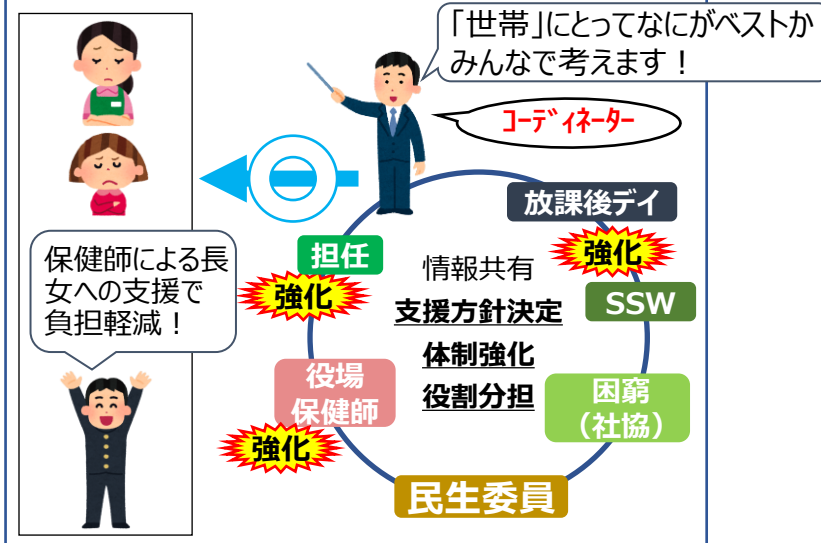
- 公的な福祉サービスが個別に支援をしていたが、世帯全体の優先順位や役割分担があいまい
- 特に長男はヤングケアラーの自覚がないこともあり、支援が不十分だった

包括的な支援体制

整備後

「世帯」全体の支援

- 支援会議で情報共有し、**コーディネーターが中心**となって、世帯全体の優先順位付け、役割分担を実施
- 特に長男 (ヤングケアラー) の負担軽減を重視することで長男の負担が軽減



※ヤングケアラー：本来、大人が担うとされている家事や介護などを行っている子ども

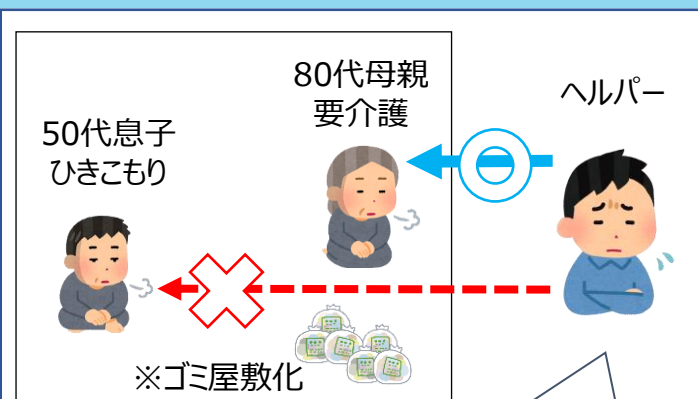
柱1 行政主体の「たて糸」

【事例2】8050問題への包括的な相談支援



包括的な支援体制
整備前

8050問題



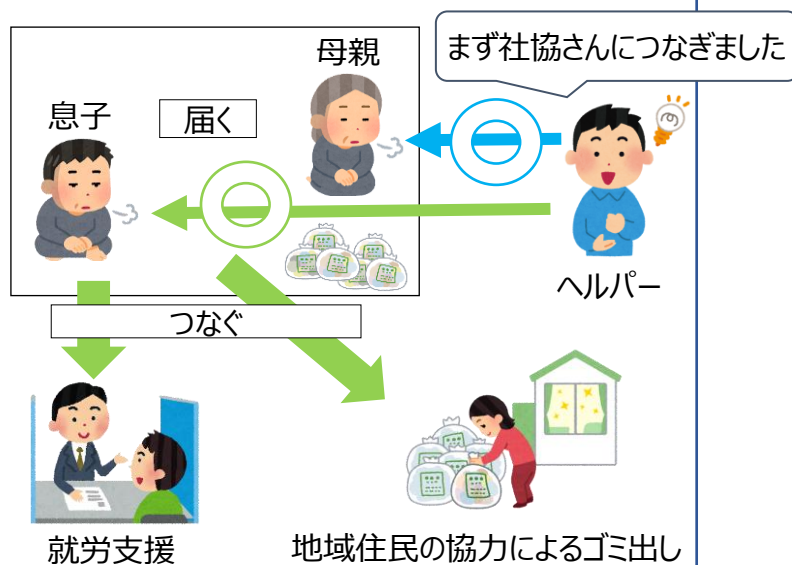
息子さんやゴミ屋敷化のことはわかっているけど、自分の仕事に専念しないと...

- ヘルパーは**母親への支援に専念し**、「ひきこもり」「ゴミ屋敷」などの課題は把握していたが、「支援の対象外」として、特にアクションを起こしていなかった

包括的な支援体制
整備後

支援がつながる

- 各分野の支援員が、「世帯」に着目し、「気付いたらつなぐ」意識をもってサービスを実施
- ヘルパーを通して、ひきこもりとゴミ屋敷の課題解決へ



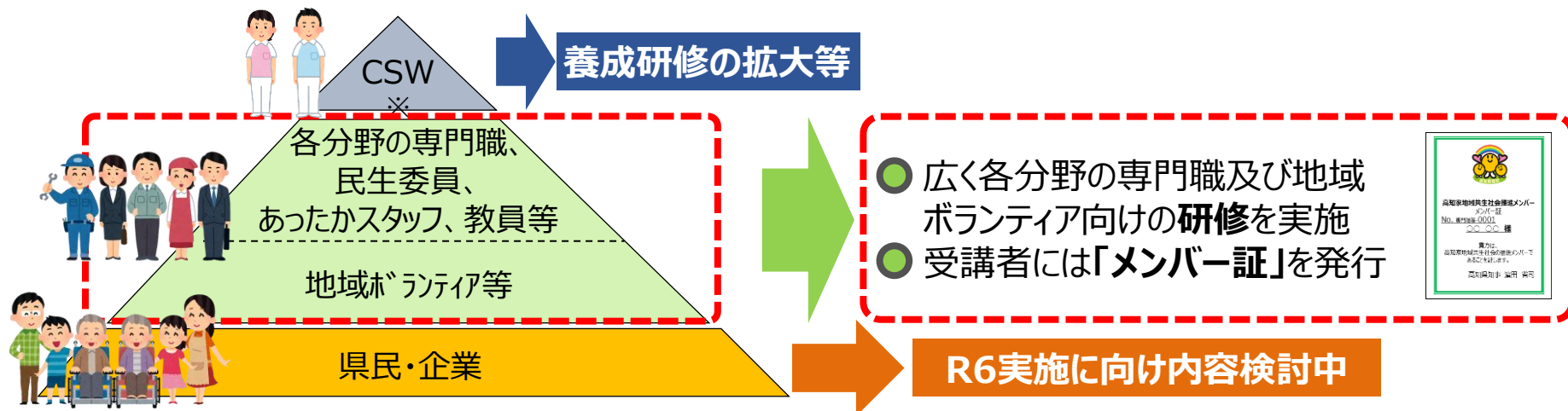
※8050問題：80代の親が50代のひきこもりの子の生活を支える世帯

(4) 「つながり」を実感できる地域づくり ～「よこ糸」の具体的な取り組み～

柱2 住民主体の「よこ糸」

ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト 「気づいてつなぐ高知家地域共生社会研修」

- 子どもも若者も高齢者も、**誰もが様々な場面で困りごとを抱える**かもしれません。
- みんながつながり、支え合う地域づくりには、困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を**気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいく**ことが大切です。
- まずは、**地域で活躍されている各分野の専門職、地域ボランティアの皆さん**に、ソーシャルワークの概要と実践のポイントを学んでいただき、地域や現場で実践につなげていただくことで、**高知家のみんなと一緒に重層的できめ細かな支援の網の目を紡いでいきましょう。**



※CSW（コミュニティソーシャルワーカー）：一人一人の課題に寄り添い、必要な支援機関や地域資源へのつないだり、地域での対応力を強化に向けて、住民の動機付けや組織化などを働きかける専門職

柱2 住民主体の「よこ糸」



地域の見守り活動に関する協定

日ごろから地域住民の方々と接する機会の多い民間の事業者にも、**日々の業務のなかで地域の見守り活動にご協力いただくための「高知県における地域の見守り活動に関する協定」**の取り組みを実施。（令和4年度末時点で24社と協定締結）

協定の内容

※ 3者での協定締結

	主な役割
民間事業者	日常の業務の範囲において、地域住民に関して異変を察知した場合、速やかにその地域の民生委員児童委員協議会に連絡・通報することに協力
民生委員・児童委員	協定締結民間事業者からの連絡を受け、対象世帯等を訪問するなど、安全を確認
高知県	市町村や関係機関に対して協定の趣旨を周知し、取組の円滑な実現を支援



四国アルフレッサ(株)、(株)フォーティ・エス協定締結式
(令和4年7月20日)



(株)高知銀行、あいおいニッセイ同和損害保険(株)高知支店、ヤマト運輸(株)高知主管支店協定締結式 (令和3年11月30日)

柱2 住民主体の「よこ糸」

各分野で進める「よこ糸」の取り組み

○フレイル予防活動などを通じた高齢者支援

地域住民やNPO等によるフレイル予防活動や、ボランティア活動のマッチングポイント制度などの導入による高齢者の生活や見守り支援など

○住民参加型の子育て支援

子育て経験者による敷居の低い相談支援の仕組みづくりや、地域ボランティアによる見守り等の子育て支援、ファミリー・サポート・センターの提供会員の拡大など

○農福連携や子ども食堂の取り組み

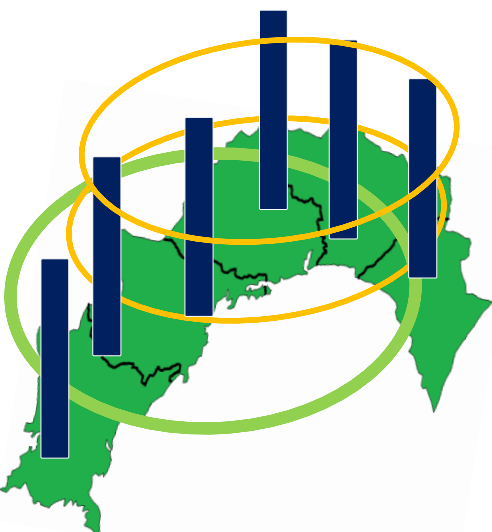
障害のある人等と農業者等とのマッチングによる農福連携の推進や、地域ボランティアの参画による子ども食堂の推進

○ボランティア活動の活性化や福祉教育の推進

「たて糸」と「よこ糸」が織りなす「高知型地域共生社会」のイメージ

みんながつながり、支え合う地域づくり

困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を **気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいく**

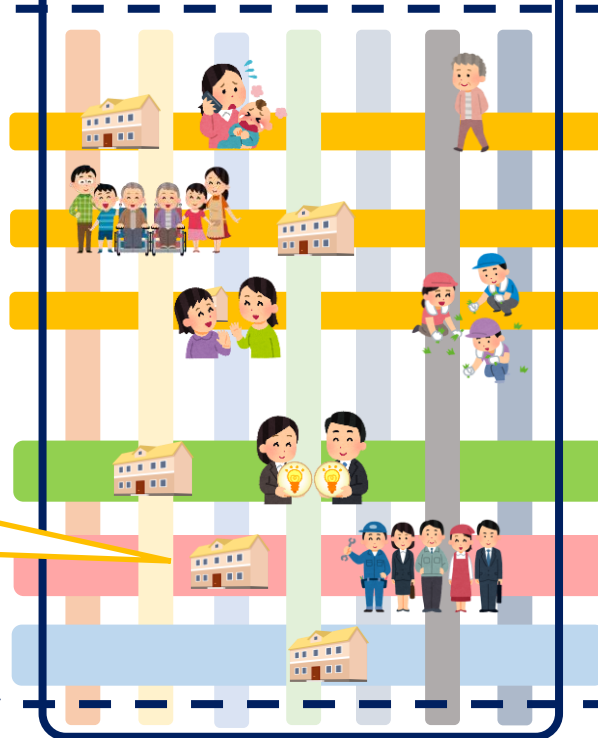


県下全域で展開！

柱1 行政主体の「たて糸」

縦割りの制度サービスの隙間を埋めて包括的な支援体制を構築

高齢 障害 子ども 困窮 教育 税 住宅



柱2 住民主体の「よこ糸」

つながりの再生に向けたネットワークを構築

市町村圏域で構築

フレイル予防活動等住民参加型の高齢者支援

住民参加型の子育て支援

地域活動等での日ごろからのつながり

県下全域で構築

ソーシャルワークの網の目構築プロジェクト

民生委員、企業等の見守り活動

社会福祉法人の公益的取り組み

地域共生社会の拠点として、あったかふれあいセンターを活用

※地域の強みや地域資源を活かしながらオーダーメイドで体制を構築

研修を受講いただいている皆さんへ

- 人口減少や高齢化、核家族化が進む中、地域の支え合いの力の弱まりや孤立・孤独の問題が深刻化しています。
- 特に、地域社会とのつながりが弱い方は、困りごとを抱えていても、自ら積極的に支援を求めないケースが多くあり、困っている人を見逃さないよう、一人ひとりが、身近な人を気にかけて、寄り添い、必要な支援につないでいくことが重要です。
- また、現在の社会福祉制度は、高齢者・障害者・児童など、課題に応じたサービスは充実してきましたが、既存のサービスでは解決できない課題も顕在化しています。
- そのため、「高知型地域共生社会」の実現に向けて、「たて糸」として市町村の包括的な支援体制の整備、「よこ糸」として困りごとを抱えている人を見逃さない、「つながり」を実感できる住民主体の地域づくりを、オール高知で進めていきます。
- このあと、困っている人が誰も取り残されないよう、「気付いて、つなぐ」ソーシャルワークのポイントを学んでいただき、地域や現場で実践につなげていただくことで、高知家のみんなと一緒にきめ細かな支援の網の目を紡いでいきましょう。

ご静聴、ありがとうございました。

3 高知家の一員であるボランティアの 皆さんにお伝えしたいこと

- (1) 地域における生活課題の事例
- (2) 社会的孤立とその課題
- (3) ボランティアとしてできること
- (4) 寄り添うために留意してほしいこと
- (5) 日々の活動のなかで気づき、つなぐためのポイント

(1) 地域における生活課題の事例

地域福祉とは

理念・目的

地域共生社会の実現

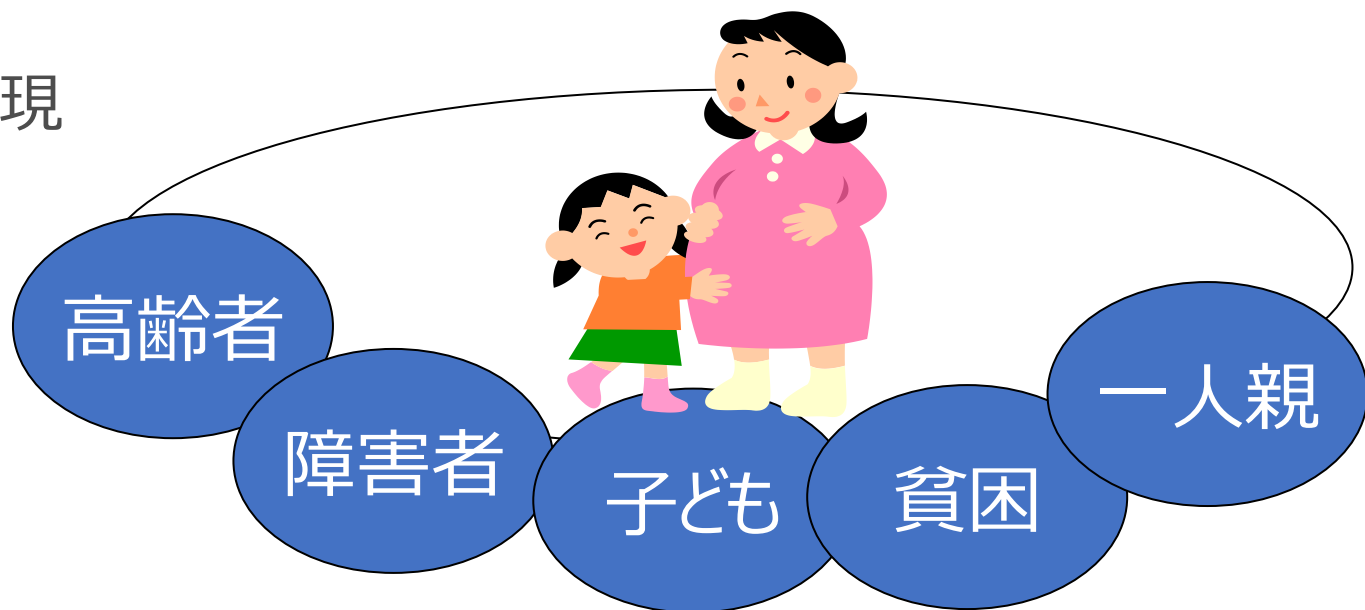
手段

制度的福祉

(フォーマルサービス)

非制度的福祉

(インフォーマルサービス)



「ふ」だんの「く」らしを「し」あわせに

誰もがその人らしく「**地域**」で安心して幸せに暮らしていくために地域住民が互いに支え合う取り組み

その人にとって安心して幸せに暮らしていくためには何が必要でしょうか？

(お金、仕事、住居、家族、友人、趣味、いきがい、健康、医療、介護、社会保険・・・)

今の地域社会では・・・

孤立



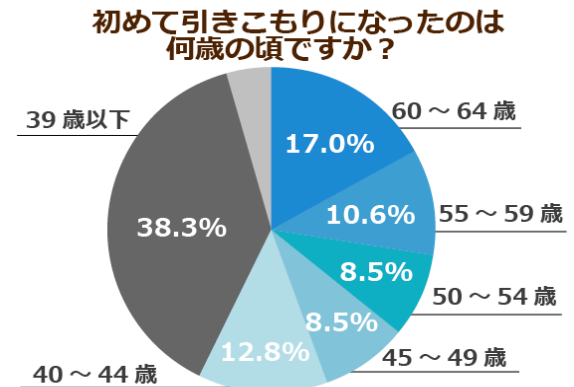
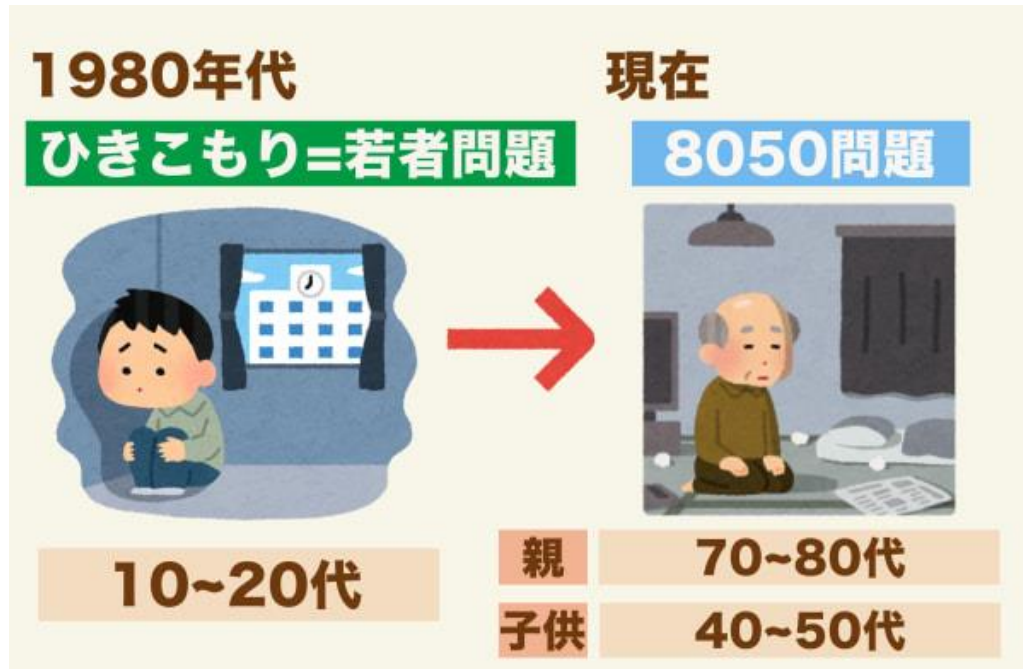
⇒家族や地域で支えられなくなってきたため、様々な課題が顕在化 3

皆さんが住んでいる地域には
複合化・複雑化した生活課題
制度の狭間の生活課題
が潜んでいる可能性があります・・

例えば・・

8050問題

「8050問題」とは、子どもの引きこもりが長期化する一方で、親が高齢化している状態。80代の親と50代の子の世帯であることが多いことから、8050と呼ばれている。往々にして収入や介護の問題などが見受けられる。



出典：「生活状況の調査2019」内閣府

⇒無職や引きこもりの子と同居している親が要介護状態や亡くなった途端に、生活が立ちいけなくなったり、地域から孤立してしまう。

ゴミ屋敷問題

何らかの事情によりゴミが捨てられず家中がゴミであふれかえっている状況になっている世帯
「病虫害の発生や悪臭など、既に社会的な問題となっていたり、周辺住民からなんらかの苦情等が寄せられているもの」（国土交通省による定義）



⇒悪臭、害虫、火災の危険など
様々な問題が発生する可能性がある。

ゴミ屋敷の解決が難しいのは、単にゴミを片付けるだけではなく、収集癖があったり、ご近所から孤立してしまっているなどの生活上の問題であることが多い。

そのため、単純に片付けをした後、再発防止に向けた福祉面からのアプローチが必要。

ヤングケアラー

「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。（厚生労働省による定義）

⇒責任や負担の重さにより、子どもの学業や友人関係などに影響が出てしまうことがある。



障がいや病気のある家族に代わり、買い物・料理・掃除・洗濯などの家事をしている。



家族に代わり、幼いきょうだいの世話をしている。



障がいや病気のあるきょうだいの世話や見守りをしている。



目の離せない家族の見守りや声かけなどの気づかいをしている。



日本語が第一言語でない家族や障がいのある家族のために通訳をしている。



家計を支えるために労働をして、障がいや病気のある家族を助けている。



アルコール・薬物・ギャンブル問題を抱える家族に対応している。



がん・難病・精神疾患など慢性的な病気の家族の看病をしている。



障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている。



障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている。

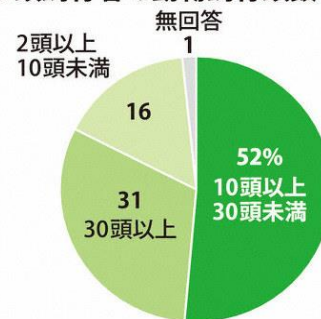
多頭飼育崩壊

「多頭飼育崩壊」とは、一般的に多数の動物を飼育している中で適切な管理ができなくなることで、飼い主の生活状況の悪化、動物の状態の悪化、周辺の生活環境の悪化のいずれか、または複数の問題が生じている状況を指す。

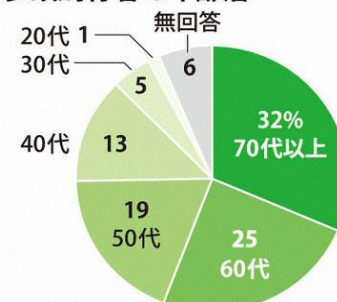
⇒多くの場合、十分な世話がされておらず、不衛生な環境で多数のペットが飼育されており、飼い主だけでなくペットにも病気、ストレス等の支障がでる。また、悪臭などによって、周辺住民の生活環境まで損ねる場合がある。



多頭飼育者の動物飼育頭数



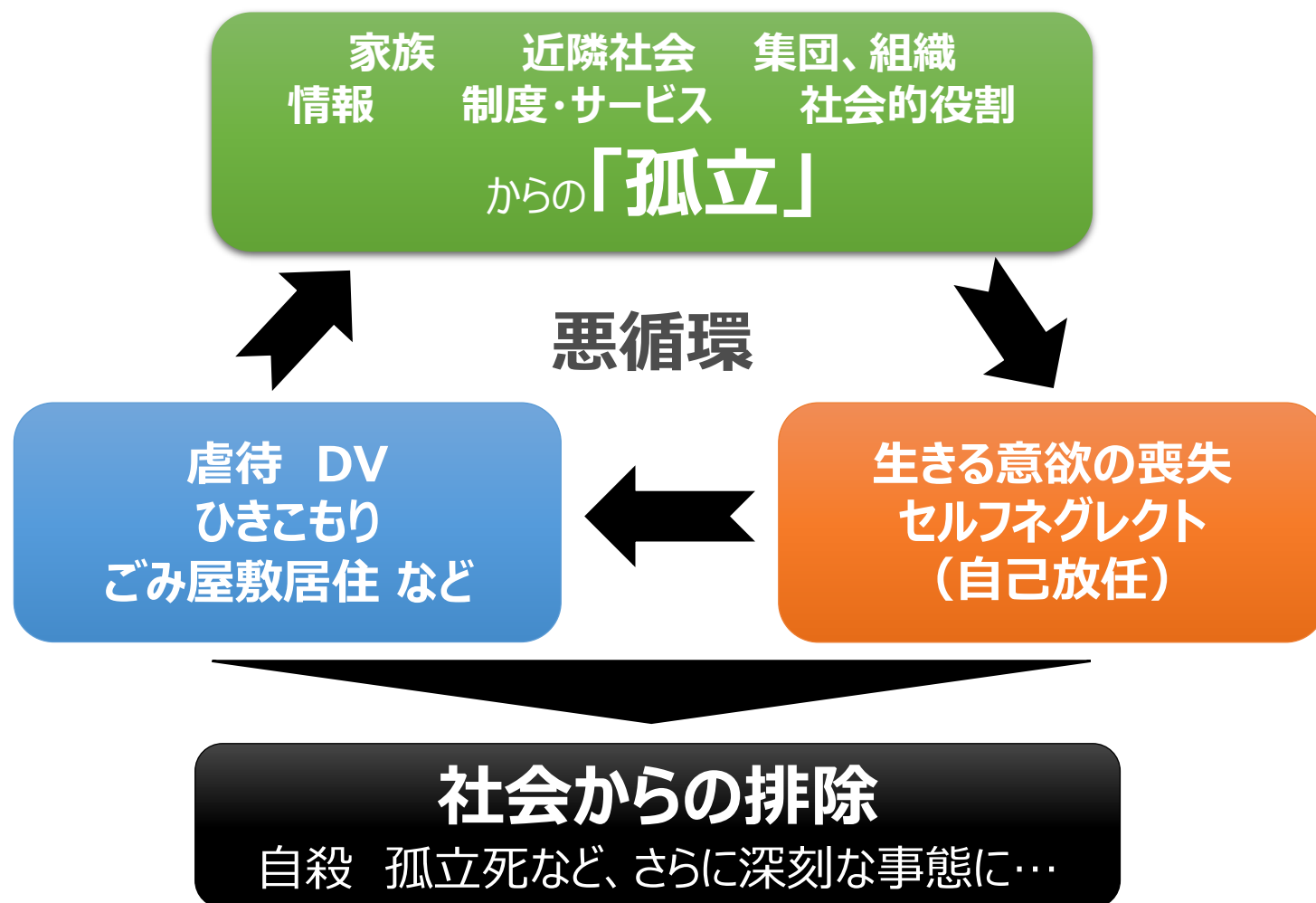
多頭飼育者の年齢層



※環境省の368事例分析結果より。小数点以下を四捨五入しているため合計は100にならない

(2) 社会的孤立とその課題

このような複雑な課題や制度での対応が難しい課題などは、「孤立」が関係していることが少なくありません。



なぜ「孤立」してしまうのか？

- 地域との関係がない
- 頼る人がいない
- 自分や家族の事は自分でなんとかせなあいかん
- どうすればいいのかわからない
- 人に頼りたくない
- 弱みを見せたくない
- （明らかに課題がありそうなのに）私は困っていない

「ない」、「いかん」で孤立が進む

人とのつながりが薄れると…

- 一日中誰とも話さない日がある
→寂しい、高齢者にとって認知症リスク増
- ちょっとした困りごとが頼めない
→結果、無理をしてケガなど…
- 悩みを相談できずに、抱え込む
- 課題を抱えていても周りから気づかれにくい など

様々な課題！ さらに・・・

新型コロナウイルス 感染症



仲間同士で集まりにくい
今まであったつながりが無く
なった・・・

困ってから、

なかなか

「助けて！」

と言えない・・・

A man in a dark jacket is shown in profile, looking upwards. He is standing in front of a wall with graffiti. The lighting is dramatic, with strong highlights on his face and the wall, and deep shadows elsewhere. The overall mood is contemplative and somewhat somber.

社会的孤立

⇒近隣住民や普段から関わりのある方にしか見つけられない課題がある。

例えば・・

- ・自ら課題解決に動き出せない人の存在
（軽度の認知症や知的障害者 等）
- ・住民の輪からはじき出される人の存在
（多動傾向のある子と親、妄想のある人 等）



・孤立しがちな人に**気付いて・つなげる**ことが重要

(3) ボランティアとしてできること

「気づく」、「つなげる」、「支え合う」ための大切な考え方

①「お互い様」の意識

- ・環境変化や物事のタイミングなど何らかのキッカケで“生きづらさや困りごと”を抱えてしまうことは誰にでもありうるということ

②負担を増やさない

- ・あくまでも日々活動しているボランティアや地域活動が中心であり、新しく特別な何かをしなければいけないわけではない

③できる事で支え合う

- ・日々の活動の中でこれまでよりも関わる方への困りごとについて少し「意識」や「アンテナ」を広げてみる

どんなことを気にかければいいの・・・？



例えばこんなことありませんか？

- ・家族の介護に疲れ切っている様子・・・
⇒サービスにつながっていない、家族との関係に困っているのかも
- ・騒音や迷惑行為など、ご近所トラブルが多い・・・
⇒地域や家庭から孤立しているのかも
- ・地域の集まりなどにめっきり来なくなった・・・
⇒心や体の具合が悪いのかも

 「ん？」、「何かおかしい」、「ちょっと気になる」が、
早期発見・早期対応の**第一歩** 



- ・見守り≠監視、見張り
- ・見守り＝適度な距離感、自然なつながり、気に掛ける

日々の活動の中でできること



• 積み重ねてきた人と人との関係性やネットワークを活かして「気づく」

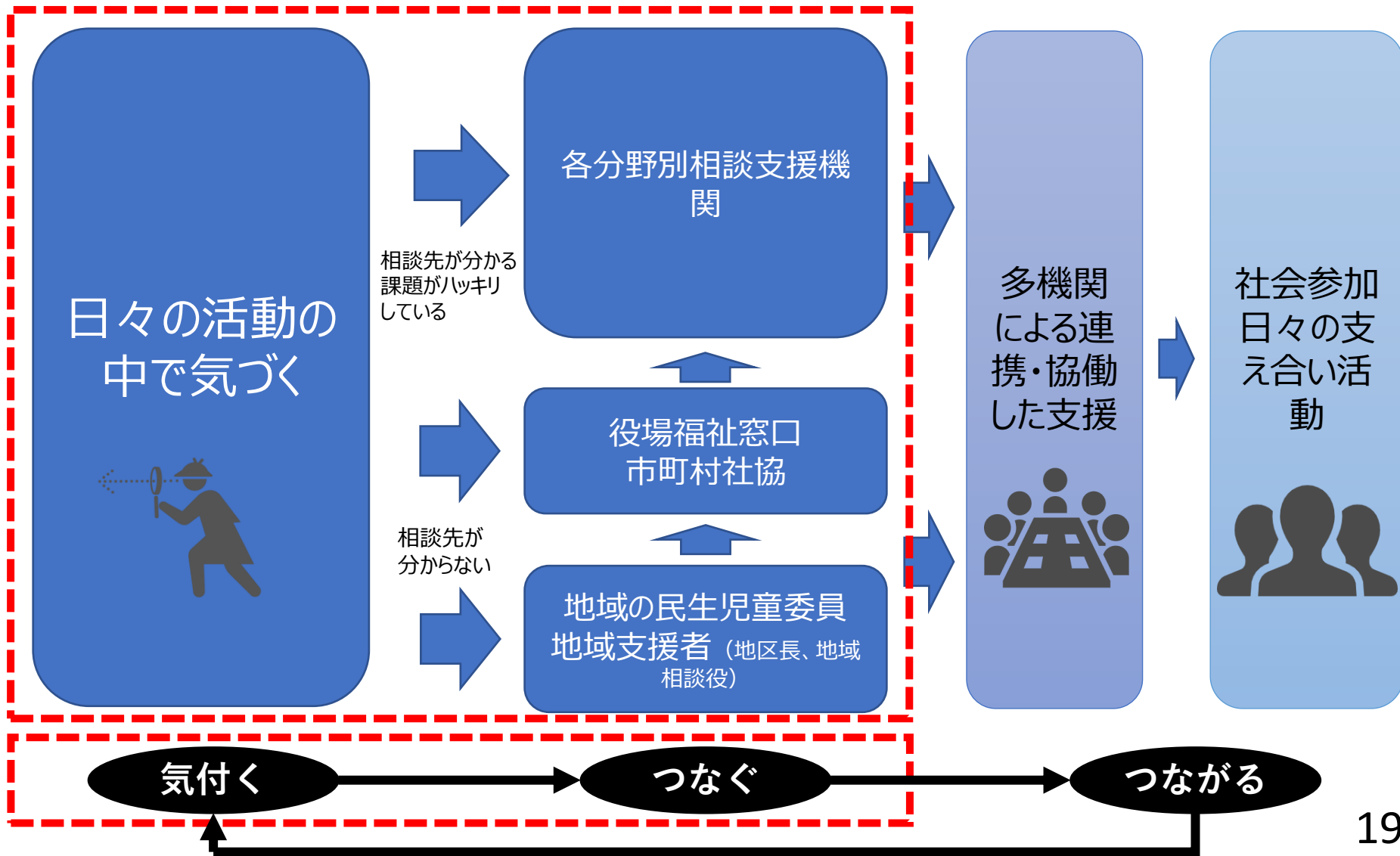


• その「気づき」を個人で抱え込まず、早期に専門職に「つなげる」

近隣住民や普段からの関わりを持つボランティアの皆さんの気づきが早めに専門職につながり、“専門機関の支援”と“住民同士の支え合い”が一体となって安心・安全な地域生活ができるようになる

どこにつなぐか？ つながるか？

フロー図（一例）



CASE1-1 8050問題に直面する世帯

概要

- ・80代の母親と50代の息子は、父が数年前に死去したため二人暮らし
- ・母親は認知症の症状が進みはじめており、身体的、判断能力ともに低下している
- ・息子は就職経験はあるが、人間関係でつまづいたことから転職を繰り返し、数年前から引きこもり状態
- ・これまでの経緯から**発達障害**なども疑われるが、受診などはしたことがない
- ・収入は母親の年金のみであるが、認知症のため**金銭管理**が難しくなっている
- ・ゴミ出しができず、家屋内は**ゴミ屋敷**となっており、**気づいた近隣住民から地区長に相談があった**

ここがキッカケ！

課題



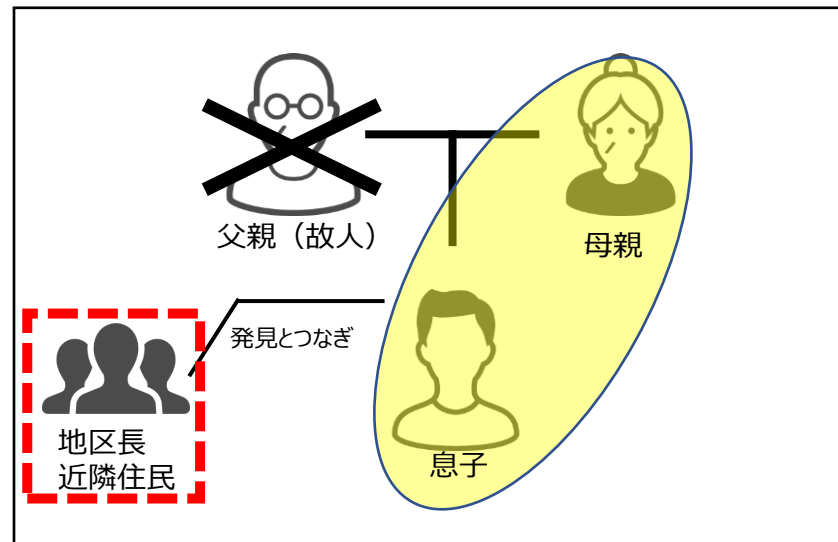
・体の不自由さによる**家事の難しさ**や認知症による**金銭管理**の問題



・子どもが引きこもっているため、人や社会との**つながりが希薄**で社会経験がない



当初状況

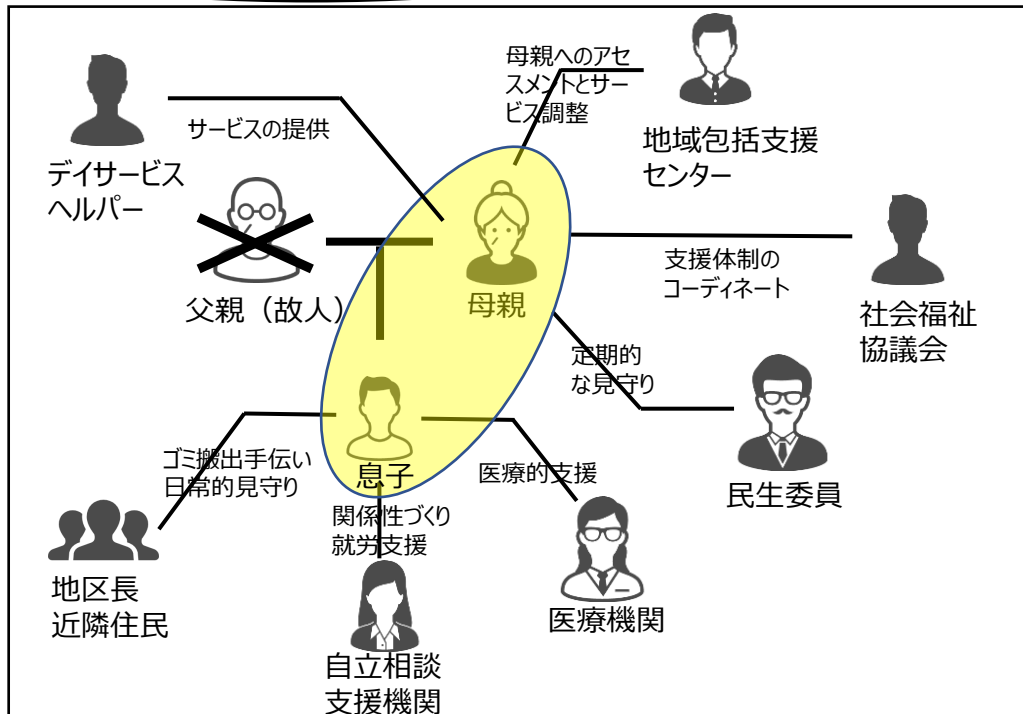


CASE1-2 8050問題に直面する世帯

支援の流れ

- ・社会福祉協議会職員が地域住民を含む関係者との**支援会議**をコーディネートし、情報共有と課題整理
- ・地区長をはじめとする近隣住民と社会福祉協議会、行政環境課、民生委員などが一体となりゴミ問題解決のために**協働**
- ・世帯への見守りやゴミ出し支援の体制を過度な負担とならないよう**役割分担して支え合い**体制を構築
- ・母親へのアプローチは地域包括支援センターが担い、必要な**サービス**につなげた
- ・息子とは定期的な訪問を通じて関係性をつくり、自立相談支援機関が中心となり**社会参加や就労支援**

多機関連携の支援



支援のポイント

1. 地域住民の**気付き**と**参加**による課題解決に向けた対応
2. 地域住民を含む**関係機関との協働体制**

代表的な各分野別相談機関

高齢分野

地域包括支援センター、役場高齢福祉担当窓口、高齢者総合相談、市町村社協 など

障害分野

福祉事務所や役場障害福祉担当窓口、精神保健福祉センター、障害者相談センター、相談支援事業所、市町村社協 など

児童分野

福祉事務所や役場児童福祉担当窓口、児童相談所、児童家庭支援センター、心の教育センター、市町村社協 など

生活困窮分野

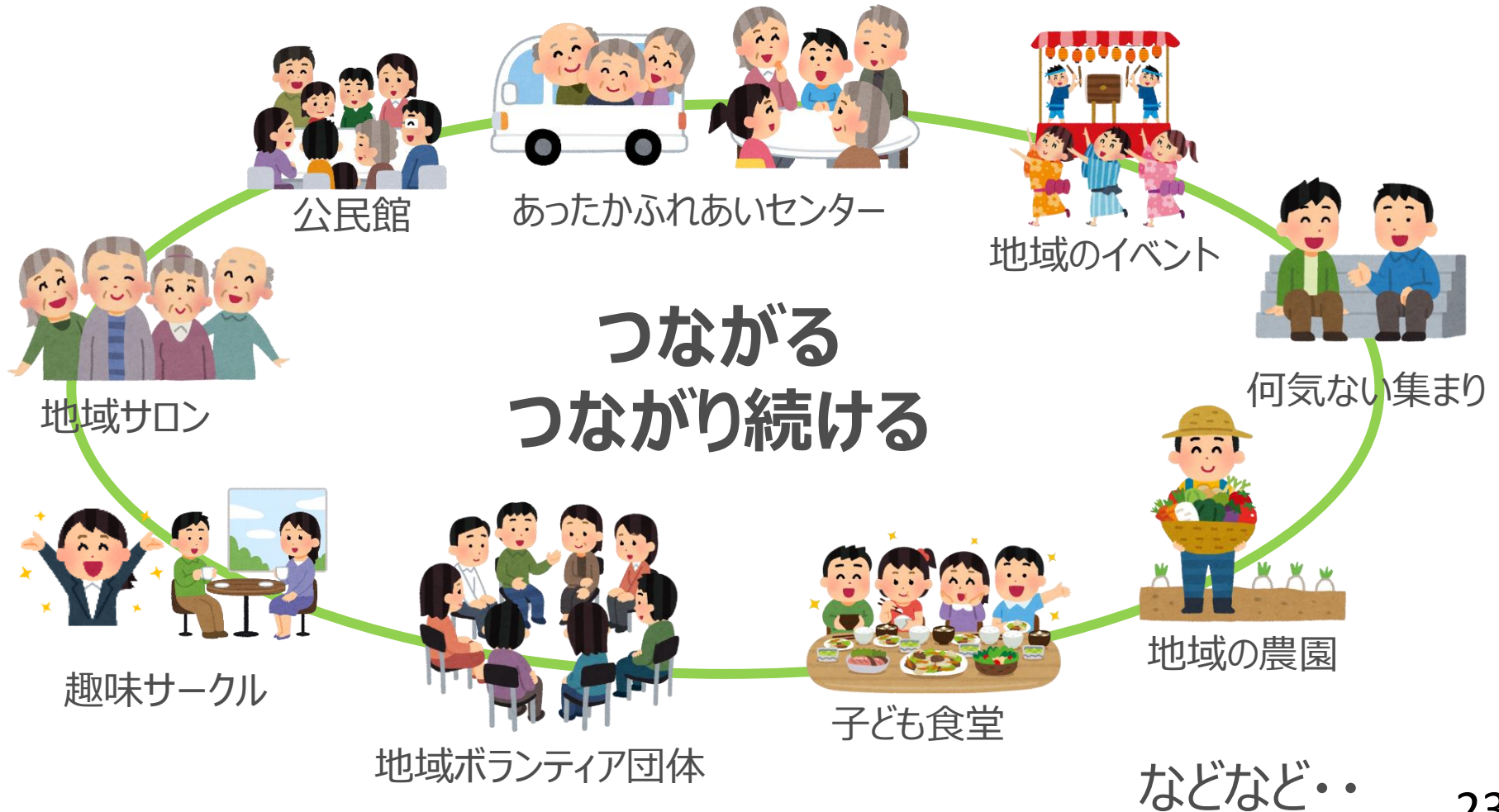
福祉事務所や市町村社協、NPOなどの自立相談支援機関など

上記相談機関は一例であり、具体的な連絡先などは記載していません。何か気づいた際に、どこにつないで良いか分からない課題については、「つなぎ先一覧」のURL※から連絡先をご確認ください。

高知県 地域共生社会 **検索**

地域における集いや活動

・さまざまな世代の方が“楽しみ”や“生きがい”を持ってお互いにつながる
ことができる集いの場や活動が地域にはあります



皆さんに身近な地域

地域力を高める

相談

支え合い

見守り

居場所づくり

つながりづくり

市町村圏域

連携・協働

つなぎ

行政

地域団体

集落活動センター

協働

民生委員

あったかふれあいセンター

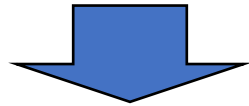
社協

つなぎ

今の社会では・・・
人とのつながりの希薄化

複雑・複合化、制度の狭間の生活課題

⇒今までのやり方では、解決できない



「高知型地域共生社会」の実現へ

柱1 行政主体の「たて糸」

分野を超えた「つながり」を意識した
行政の仕組みづくり

➡「たて糸」として、市町村の多機関
協働による包括的な支援体制の
整備を促進

柱2 住民主体の「よこ糸」

「つながり」を実感できる
地域づくり

➡「よこ糸」として、人と人とのつながり
の再生に向けたネットワークづくりを
展開



(4) 寄り添うために留意してほしいこと

困りごとを抱えた人に

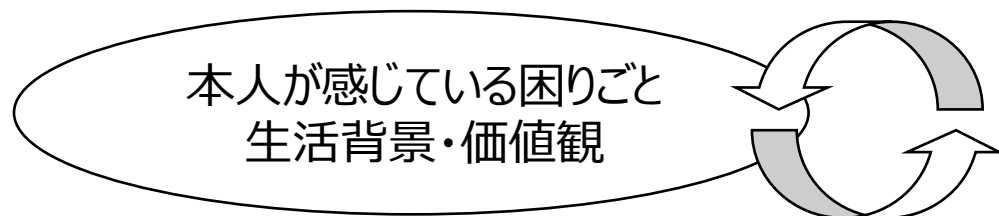
- 1 本人の立場に立つ
- 2 ありのままを受け止め、善悪をジャッジしない
- 3 自分の体験をもとに安易に励まさない
- 4 秘密を守りながらも丁寧につなぐ

どんな困りごとを受け止める
ソーシャルワーカー

社会福祉法人 香美市社会福祉協議会
生活相談センター香美 所長 徳弘 博国
(社会福祉士)



本人の立場に立つ



本人の立場に立とうと
心掛けることが必要

「しっかり聴いて理解してもらえている」という
安心と信頼が問題の解決をスムーズにします



ありのままを受け止め、善悪をジャッジしない

困りごとの原因

本人の努力不足
誤った行為・行動

~~「間違っている」
「それじゃダメだ」~~

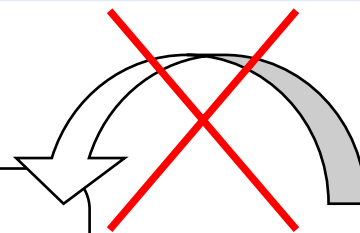
本人との信頼関係を
損なうことに...

「やっとの思いの言葉に、善い・悪いの判断を向けないこと
ありのままを受容し、共感的な態度で耳を傾けることが大切です」

自分の体験をもとに安易に励まさない

一人ひとり異なる

- ・本人が置かれている状況
- ・これまで生きてきた道のり
- ・困りごとを乗り越える力



安易な励まし

「自分は乗り越えられた。あなたも大丈夫」

一時的な励ましで何とかなる問題はほとんどありません
問題は一つとして同じものはないことを自覚することが大切です

秘密を守りながらも丁寧につなぐ

困っている人の話す相談ごと
≡ プライバシーの塊

一方で…

聞いた方が一人で
解決できないことも事実

「誰にも言わないで」

情報共有についてご本人の了解を得たうえで、
協力してくれそうな専門機関等に繋ぐことが大切です



(5) 日々の活動のなかで気づき、つなぐためのポイント

【話し手】

社会福祉法人 香美市社会福祉協議会

生活相談センター香美 所長 徳弘 博国さん

(社会福祉士)

【聞き手】

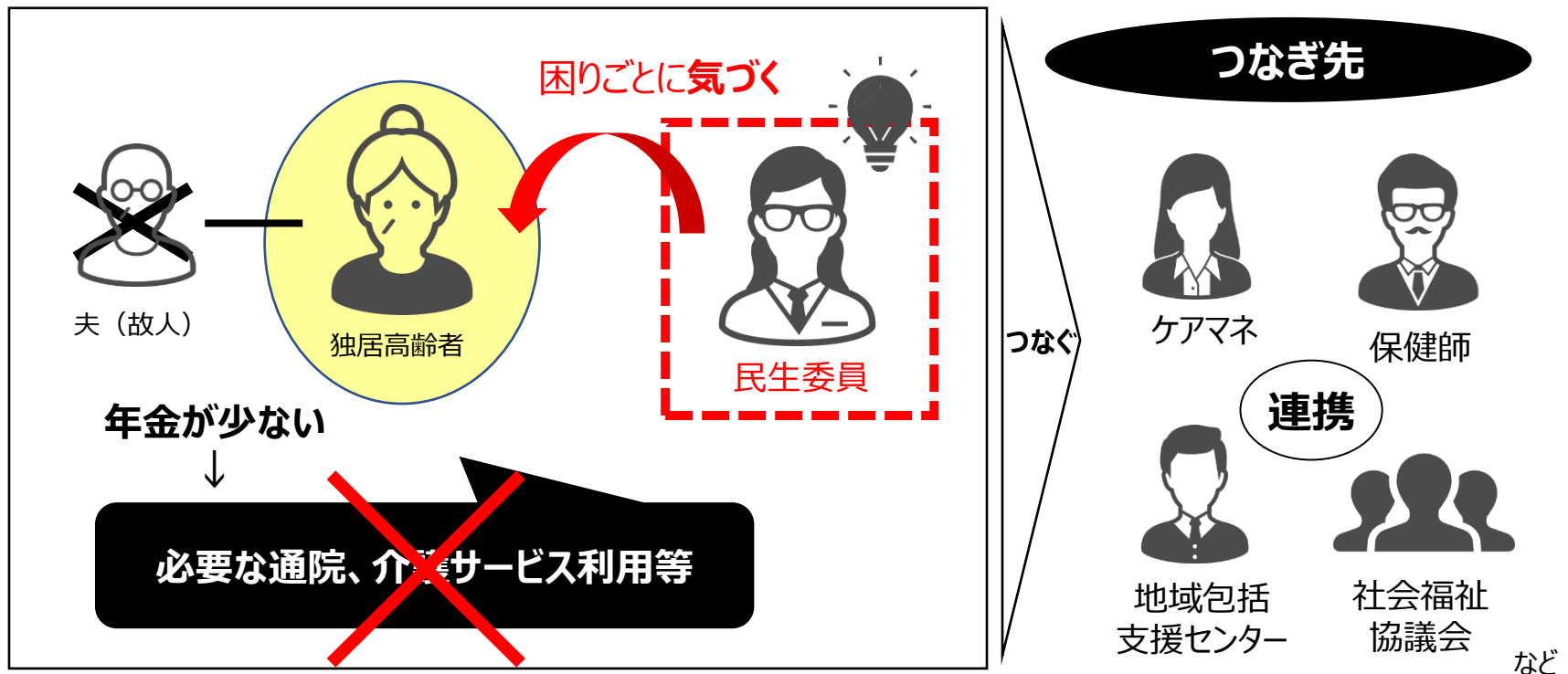
社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

地域・生活支援課 課長 仙頭 正輝

CASE1 民生委員が気づき、つないだ事例

概要

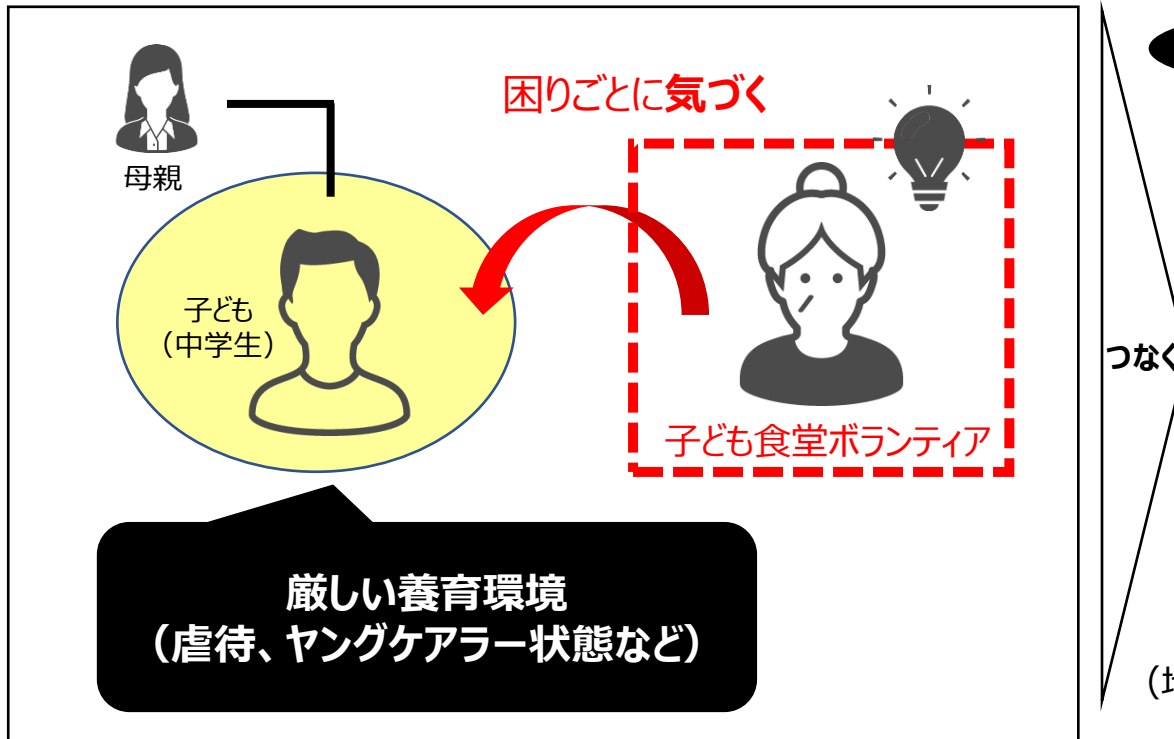
- ・地域の見守り活動をしている**民生委員**が、困りごとを抱える人に**気づき**、支援者につないだ事例
- ・ある一人暮らしの**高齢者**が、年金が少ないために、必要な通院や介護サービスの利用等を控えている



CASE2 子ども食堂で気づき、つないだ事例

概要

- ・子ども食堂に協力しているボランティアが、参加している子どもとの何気ない会話の中で気づき、支援者につないだ事例
- ・参加している子どもが、家庭での虐待やヤングケアラー状態にあるなど、厳しい養育環境にあることが判明



つなぎ先



学校



スクール
ソーシャルワーカー



主任児童委員
(地区民生児童委員)



社会福祉
協議会

など

知事からのメッセージ

高知県知事 濱田 省司

アンケートでご記入いただいたメールアドレスに

「高知家地域共生社会推進メンバー」

のメンバー証をお送りします

アンケートへの
ご回答を
お願いします



ご視聴ありがとうございました！